

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年9月30日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか	○		活動に十分なスペースが確保されている。	利用児童の増加や活動内容の変化を踏まえ、より安全で過ごしやすい環境づくりを継続する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		利用児童の人数や特性、活動内容を考慮し、必要な職員配置となるよう勤務体制を調整している。	突発的な欠勤等にも対応できるよう、柔軟な応援体制の整備を進める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		目で見てわかりやすいよう掲示など工夫している。	現在身体障害をもつ利用者はいないが、今後入所した際にも対応できるように検討を進める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日常的な清掃・整理整頓を行い、活動内容に応じてスペースを確保している。	より快適に過ごせるよう、定期的に環境を見直す。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンや個別対応が必要な場合 落ち着いて過ごせる場所を確保している。	個別スペースの活用方法を職員間でさらに共有する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々の振り返りや会議を通じて職員の意見を共有し、支援内容や業務の改善につなげている。	より多くの職員が意見を出しやすい仕組みづくりを進める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意見や要望を把握し、職員間で共有してサービス改善に反映している。	評価結果をより具体的な改善につなげ、その内容を保護者へ適切にフィードバックする。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の打合せや個別の相談等を通して、職員が意見を伝えやすい環境づくりを行っている。	定期的な意見収集の機会をさらに充実させる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部評価は受けていないものの、内部での監査を定期的に受けている。	現在の定期的な内部監査を継続し、必要に応じて外部監査の実施についても検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修や法人内研修等への参加機会を確保し、職員の専門性向上に努めている。	研修内容を職員間で共有し、実際の支援に活用する機会をさらに増やす。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所の支援方針やこどもの発達段階を踏まえて支援プログラムを作成し、適切に公表している。	実際の活動内容との整合性を定期的に確認し、必要に応じて更新する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		こどもと保護者の意向を丁寧に聞き取り、日々の様子や関係機関からの情報も踏まえて計画を作成している。	アセスメントの視点をさらに深め、より具体的な目標設定につなげる。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援に関わる職員から意見を聞き、こどもの最善の利益を考慮して計画内容を検討している。	より多角的な意見を取り入れられるよう検討時間を確保する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画内容を職員間で共有し、支援目標を意識して日々の支援を行っている。	計画内容と実際の支援の振り返りをより定期的に行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察や記録を活用し、こどもの適応行動や変化を継続的に把握している。	標準化されたアセスメントツールの活用について、職員の理解をさらに深める。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援だけでなく、家族支援、移行支援、地域連携の視点を取り入れて具体的な支援内容を設定している。	4つの支援の視点を職員間でさらに共有し、実践につなげる
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員それぞれの意見や専門性を活かし、チームで活動内容を検討している。	より幅広い視点を取り入れた活動計画を検討する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの興味・関心や季節、発達段階に応じて活動内容を工夫している。	過去の活動を振り返り、新たな活動のレパートリーを増やす。

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		一人ひとりの特性やその日の状態を踏まえ、個別活動と集団活動を柔軟に組み合わせている。	個々の参加状況をさらに細かく把握し、活動内容を調整する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に児童の状況、活動内容、職員の役割分担等を確認し、共通理解を図っている。	短時間でも必要な情報を確実に共有できる方法をさらに工夫する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後にこどもの様子や気付きを共有し、次の支援に活かしている。	振り返り内容をより具体的に記録し、継続支援につなげる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援内容やこどもの様子、変化等を記録し、支援の評価・改善に活用している。	記録の質を統一し、より客観的で具体的な記録を意識する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、こどもの成長や環境の変化を踏まえて計画を見直している。	日々の小さな変化も計画の見直しに反映できるよう意識する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		本人支援だけでなく、家族支援、移行支援、地域連携の視点を取り入れて具体的な支援内容を設定し場合に応じて組み合わせながら支援に取り入れている。	4つの活動をよりバランスよく取り入れられるよう活動内容を検討する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動や遊びの選択肢を提示し、こども自身が選択・決定できる場面を意図的に設けている。	年齢や特性に応じた自己決定の機会をさらに増やす。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		こどもの状況を把握している職員が会議に参加し、事業所での支援状況を適切に共有している。	会議で得た情報を事業所内で速やかに共有する体制をさらに整える。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保健・医療・福祉・教育等の関係機関と必要な情報共有を行い、連携した支援を進めている。	関係機関との定期的な情報交換の機会をさらに充実させる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		下校時刻や学校行事、学校での様子等を適宜共有している。	情報共有の方法を整理し、より迅速な連絡体制を整える。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて就学前の支援機関から情報提供を受け、これまでの支援内容を踏まえて支援している。	移行時の情報共有をより計画的に行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業後の進路を見据え、必要に応じてこれまでの支援内容やこどもの特性等の情報提供を行っている。	移行先との引継ぎをより早期から計画的に進める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	現在は地域の児童発達支援センターとの連携図る機会はほとんど見られない。	必要に応じて児童発達支援センターとの連携の機会を設ける。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		かごバラの活動にも参加し、機会があれば地域の他の子どもとの交流をしている。	こどもの特性に配慮しながら、交流機会をさらに広げる。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域の福祉関係者との情報交換や研修等を通じて、地域の支援体制について理解を深めている。	協議会等で得た情報を事業所の支援に積極的に活用する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡ツール、面談等を活用して、こどもの様子や成長、課題について保護者と共有している。	家庭と事業所双方の視点をより支援に反映できるよう情報共有を深める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者からの相談に応じ、家庭での関わり方や利用可能な研修・支援情報等を必要に応じて提供している。	家族支援プログラム等の情報収集と提供機会をさらに充実させる。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用開始時等に必要事項を分かりやすく説明し、保護者が安心して利用できるよう配慮している。	制度改正等に合わせて説明内容を定期的に見直す。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		こども本人の意思を尊重するとともに、保護者の希望や家庭状況を丁寧に確認して計画作成に反映している。	こども本人の意向をより具体的に把握する方法を工夫する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		放課後等デイサービス計画の内容を分かりやすく説明し、保護者の同意を得た上で支援を開始している。	説明後の疑問や要望を確認し、より理解しやすい説明を心掛ける。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者の相談を丁寧に受け止め、必要に応じて面談や助言、関係機関への情報提供等を行っている。	相談内容を支援計画や日々の支援により効果的に反映する。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会や行事等を通して、保護者同士が交流できる機会を設けている。	参加しやすい開催方法や内容を検討し、交流機会の充実を図る。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付・対応の体制を整備し、申し出があった場合には迅速かつ丁寧に対応するよう努めている。	苦情内容を職員間で共有し、再発防止とサービス改善につなげる。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信や情報発信ツールを活用し、活動内容や行事予定等を分かりやすく発信している。	発信内容や頻度を見直し、より分かりやすくタイムリーな情報提供を行う。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理・保管方法を定め、職員への周知を徹底して適切に取り扱っている。	情報管理に関する職員研修や確認を継続して実施する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こどもや保護者の特性に応じ、分かりやすい言葉や視覚的な情報等を活用している。	個々の特性に応じたコミュニケーション方法をさらに検討する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域行事への参加や地域住民との交流等を通して、地域とのつながりを大切にしている。	地域との交流機会を継続的に確保し、事業所の理解促進につなげる。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、職員への周知と定期的な訓練を実施して緊急時に備えている。	訓練後の振り返りを行い、マニュアルや対応方法の改善につなげる。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを整備し、避難訓練等を定期的に実施して非常時の対応について職員間で確認している。	BCPを整備し、避難訓練等を定期的に実施して非常時の対応について職員間で確認している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時や変更時に健康状態や服薬状況等を確認し、職員間で必要な情報を共有している。	情報更新時の確認を徹底し、最新情報を確実に共有する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギー情報を事前に確認し、必要に応じて医師の指示内容を踏まえた対応を行っている。	職員全員がアレルギー情報を正確に把握できるよう、定期的に確認する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、環境確認や研修・訓練等を実施し、安全を確保した上で支援を行っている。	ヒヤリハット等も活用し、安全対策を継続的に見直す。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全管理に関する事業所の取組や緊急時の対応について、保護者へ必要な情報を提供している。	保護者がより理解しやすい周知方法を検討する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を職員間で共有し、原因や対応を検討して事故の未然防止に努めている。	事例を蓄積・分析し、具体的な再発防止策につなげる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修や職員間の確認を行い、こどもの人権と尊厳を守る支援を徹底している。	不適切支援の芽を早期に発見できるよう、日々の支援を継続的に振り返る。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束をやむを得ず行う可能性のあるお子さんの利用は有りません。	身体拘束を行わない支援方法を職員間で継続的に検討し、適正化を徹底する。